

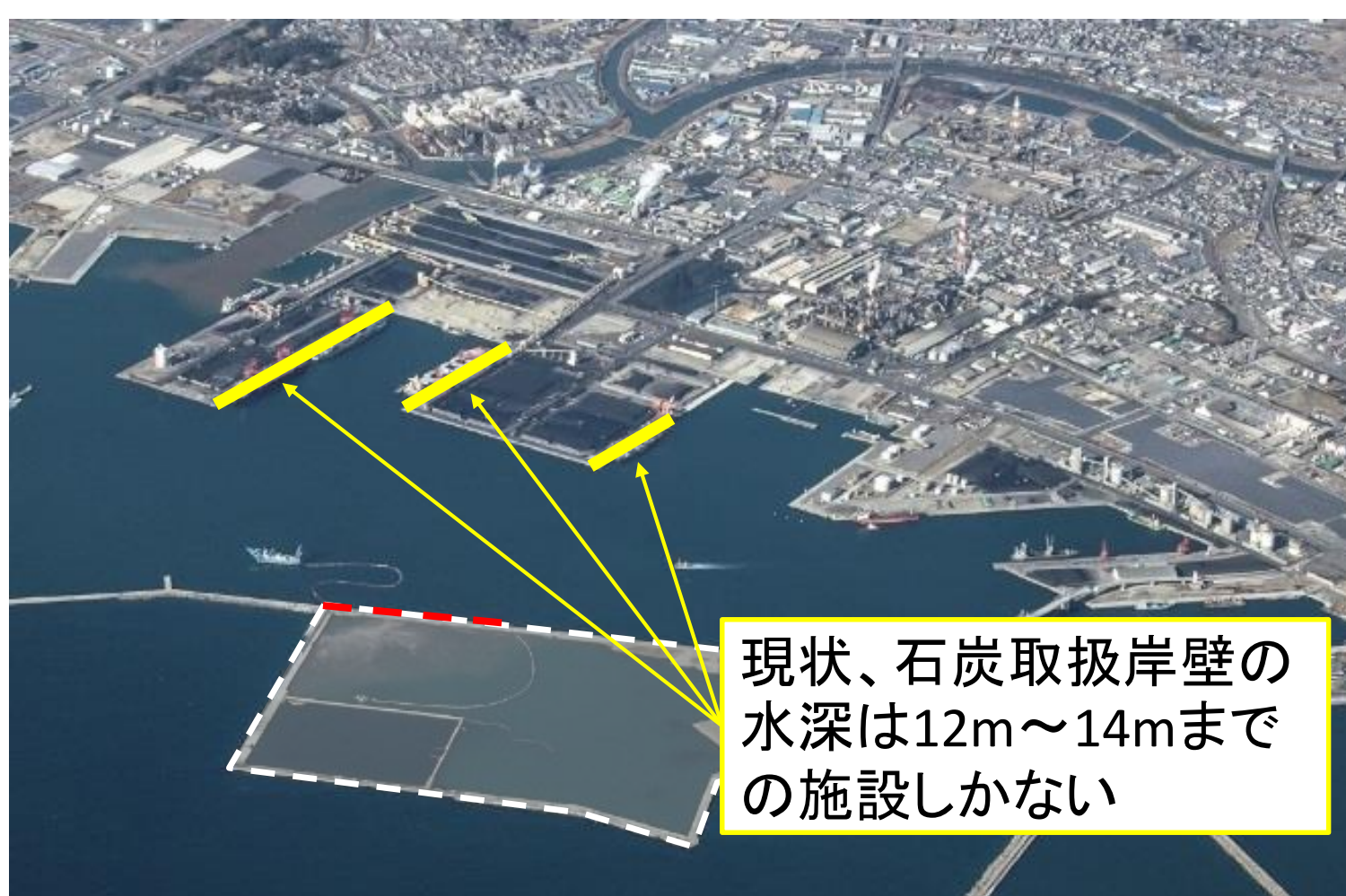
小名浜港東港地区国際物流ターミナル整備事業

石炭輸送効率化による電力安定供給で東日本を照らす

現在 now

将来 future

インフラ



現状、石炭取扱岸壁の水深は12m～14mまでの施設しかない

パナマックス船(7.8万ト)減載で輸送
輸送コスト2,618円/ト

新たに大水深岸壁(水深18m)を整備

大型石炭船が入港可能に(輸送コスト 約4割削減)



岸壁(水深18m)(耐震)

臨港道路(橋梁)整備状況(平成28年2月撮影)



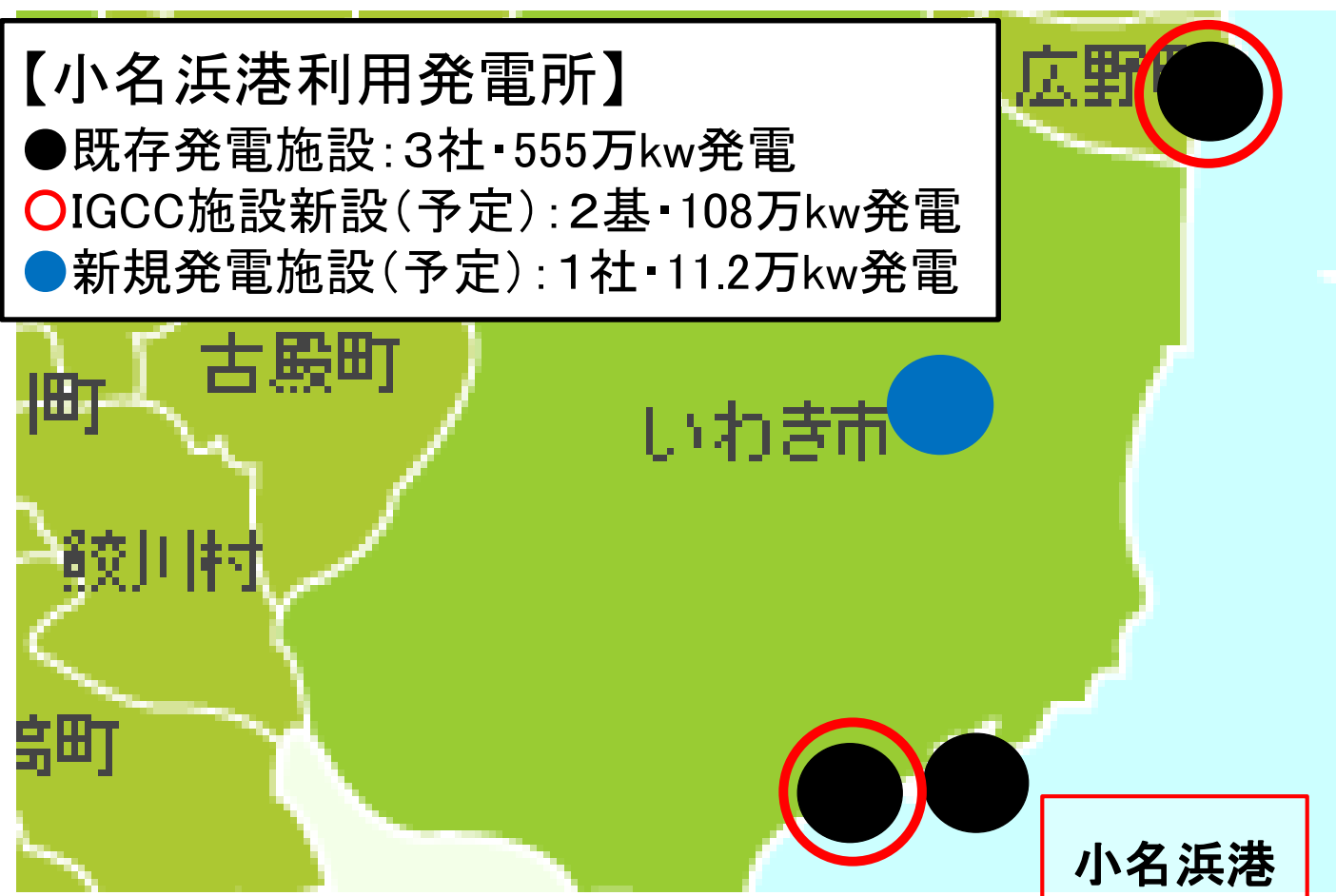
ケープサイズ船(12万ト)等満載で輸送

輸送コスト1,619円/ト

出典:国土交通省港湾局試算

平成30年度 完成予定

地域



【小名浜港利用発電所】
●既存発電施設:3社・555万kw発電
○IGCC施設新設(予定):2基・108万kw発電
●新規発電施設(予定):1社・11.2万kw発電

小名浜港

小名浜港を利用した最新鋭の石炭火力発電所の新規建設

最新鋭の石炭火力発電所設備(IGCC)



※写真はIGCC実証機

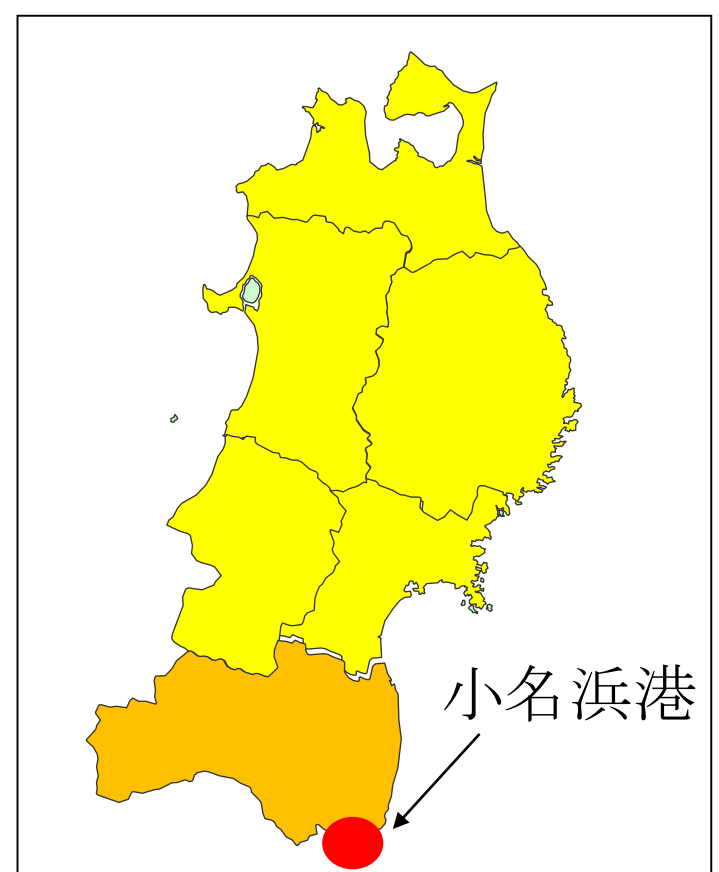
燃料供給拠点へ

大水深岸壁等の拠点的な整備により、大型船による安定的かつ効率的な石炭輸送が可能

震災後の平成25年11月には、東京電力(株)が最新鋭の石炭火力発電所設備(IGCC※)建設計画を発表

※IGCC:石炭ガス化複合発電(従来の石炭火力より高効率でCO2排出量も少ない)

雇用(最大2千人/日)の増加や経済波及効果(800億円程度)が見込まれており、地域経済の復興に寄与



小名浜港